

日造協

2017.2月
通巻 第515号

日造協 ニュース

Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

- 2面 【学会の目・眼・芽】学術知としての緑の価値の共有化とコミュニケーション
(公社)日本造園学会論文集委員会幹事 東京都市大学環境学部准教授 横田 樹広
【報告】国際園芸博覧会2016トルコ・アンタルヤ視察、AIPH総会、IGOTY審査会
3面 技術委員会 東京大学(本郷キャンパス)の緑地管理状況を視察
平成28年度 第2回地域リーダーズ勉強会報告
4面 【ふるさと自慢】温泉だけじゃないんです 味力もたっぷり大分県♪
高橋由利子(豊秀植木株)
【緑滴】迷惑な雪?ありがたい雪? 青森県支部 三浦 綾子(有三浦造園)

造園人の集い600人参加 盛会に



造園産業界を代表して挨拶・乾杯の発声を行う藤巻司郎会長、酒井一江顧問

2017年新年造園人の集いは160人の世話人により1月5日、東京都港区高輪の品川プリンスホテル「プリンスホール」で開催され、造園の学界、官界、産業界をはじめ、広く関連業務に携わる600人を超える方々が参加して盛大に行われた。

集いは、(一社)日本公園緑地協会の霊山明夫常務理事の進行で、冒頭、世話人を代表し、富田祐次(一社)日本公園緑地協会会長が、「昨年は、都市公園法 富田祐次会長施行60周年、古都保存法施行50周年、国営公園制度施行40周年と節目の年で、さまざまな催事とともに国土交通省から、今後の緑とオープンスペースの方向性を示した提言が出された。これらの期待に応えるため、造園界が一丸となって取り組んでいくことが不可欠。集いの発起人は160名だが女性は6名しかいない。女性をはじめ、新しい方々が育っていくことを期待し、明るい話題が増えることを祈念している」と挨拶した。



次いで、学界を代表して、宮城俊作(公社)日本造園学会会長が、「あと8年で100周年を迎える学会の次の100年に向けた取り組みが2つある。一つ 宮城俊作会長は造園CPDで、現会員は7,500名おり、証書の発行は前年比3割増しが見込まれている。公共事業におけるCPDの役割が重要になっていることの表われで、学会はこれをさらにバックアップしていきたい。もう一つは、日本の伝統的庭園文化を世界遺産にしようという動きであり、学会でも取り組みたい」と挨拶した。



公園緑地をさらに生かす制度を検討

国土交通省からは、柳野良明大臣官房審議官が、「来年度当初予算案に、新しい項目が多々あるが、大きなトピックスが4つある。1つ目は、観光と関連 柳野良明審議官したまちづくりを交付金ではなく補助する景観まちづくりの新事業である。2つ目は、海外の日本庭園の再生で、日本の



庭園文化をはじめ、造園技術を世界に紹介するため、これから議論を深めたい。3つ目は、パークPFI(仮称)の導入に向けた制度改正で、都市公園施設に民間事業者の方々の協力を得た整備を取り入れたいと思っている。4つ目は、市民公開緑地制度(仮称)で、民間の所有地を準公園として、公園緑地の体系に組み入れ、税制措置を図ろうというものだ。これらの取り組みは、昨年5月に進士先生を座長にまとめていただいた検討を踏まえたものだ。ポイントは緑による都市のリノベーション、緑とオープンスペースの価値を都市に活かす仕組みをつくることで、民間や市民にもっと公園を開放して使いやすくしていく、新しい取り組みを進めていきたい。指定管理者制度も普及しているが、人口減少、少子高齢化の中で、さらに将来に向けたマネジメントを考えなければならない」と述べた。

国立公園満喫プロジェクトを推進

環境省からは、亀澤玲治自然環境局長が、「現在、国立公園満喫プロジェクトに取り組んでいる。プロジェクトは2020年までに外国人旅行者を現状の2倍、約4,000万人とする中で、割り当てがある訳ではないが、国立公園は4分の1の1,000万人を目標に掲げている。現状430万人で、やや野心的な目標だが、国立公園の今年度補正予算で100億円、来年度予算で100億円を確保し、レンジャーも25名の増員が認められている。具体的には、民間開放としてカフェなどの誘致を行い、景観の改善で廃屋化したホテルや老朽化した看板等の撤去、電線の地中化などを行い、新たな箱づくりではなく、景観を障害物を撤去、施設を強化し、国立公園の魅力を高め、公園を旅先にしたい人を増やしたい。まずは8つの国立公園で着手し、全国33カ所に展開していく」と述べた。



樹林

(一社)日本造園建設業協会理事

(株)武田園 代表取締役 小林和義



創業100年へ向けた礎 ~歴史を誇りに時代の流れを感じ取る~

岡山市の中心市街地を東西に走る街路の一つに「あくら通り」がある。通りの名は両側の歩道に植樹されているクロガネモチを岡山では「アクラ」と呼ぶことに由来している。岡山市の木に選定されているクロガネモチは、東日本では貴重な樹種と聞いているが、冬にたわやかな赤い実をつける縁起の良さもあり、市民にもなじみの深いポピュラーな木でもある。その昔、「岡山では商家に植えるとアツという間に蔵(クラ)が建つほど繁盛したので《アクラ》と呼ぶようになった。岡山はクロガネモチの生育にとっても適した環境である。」これは先代の社長(故武田雅義)から29年前に造園業界に入った時に最初に教えられた話である。



弊社は、大正14(1925)年初代武田雷造が独立し創業。戦国の武将武田信玄の流れを汲み、1635年頃、池田家の岡山藩と鳥取藩のお国替えの際、鳥取から岡山へ移り、後楽園の前身でもある御後園の築庭にも携わった。以後、時を刻み、岡山城と旭川を挟んだ現在の地に居を構え、長きにわたり至っている。昭和9年の室戸台風による岡山大洪水や、岡山大空襲等、紆余曲折した多難な時代を乗り越え、二代目社長武田雅義が時代の流れをいち早くつかみ、個人・民間企業からの受注だけでなく、将来的な公共工事・業務の必要性から、昭和39(1964)年に会社設立をした。

私は昭和63(1988)年義理の父でもある先代社長からの要望もあり、地元の建設会社をから入社。厳しい先代の社長から樹木のいろはから、特に人との関わりあい、『感謝の気持ちを忘るべからず』を教わった。特に記憶に残っているのは植物・草木の基本である山を一緒によく歩いたことである。

藤巻会長、酒井顧問が乾杯、祝宴に

酒樽による鏡開きは、各界を代表して14名が壇上に上り行われ、乾杯の発声は産業界を代表して、藤巻司郎日造協会会長と女性 藤巻会長、酒井顧問の活躍を推進する立場から酒井一江日造協顧問が行い、藤巻会長が「今年は今まで以上に心と心をつなぎ、それを大きな輪にして素晴らしい造園業界にしたいと思っている。また、庭園文化の世界遺産への取り組みについては、造園業界が力を合わせて精一杯のお手伝いさせていただきたい」と述べ、酒井一江日造協顧問が「委員会の中で女性活躍推進部会をお預かりして3年になる。今年の日造協のテーマは造園力だが、日造協だけでなく、皆様の力を結集して発展したい。そこで



そして、平成2年『みどり ゆたかな 郷土づくり』を創造意識高揚のためにスローガンとして設定した。平成18年、先代の社長の逝去に伴い会社を引き継いで11年になる。



岡山市街地や郊外、県内随所に弊社のその時代の技術や技能が活かされた場所が垣間見られる。その場に立つと、当時関わっていた一人ひとりの活気ある声や工事音が聞こえて来るようなことさえ感じる。現在、機械を使用すれば数日で終わってしまうような事さえ、その当時は試行錯誤しながらの連続だったのだろう。

岡山駅前から後楽園までの桃太郎大通り、岡山市役所への市役所筋などの街路樹。太く大きくなった景観を見れば、今現在も弊社で管理業務をさせて頂いている歴史と誇りが感じられる。また、市内中心地を南北に流れている西川・枝川緑道公園も、永い歴史の流れを感じ、市民の心の拠所となり、今を流れている。

造園技術を活かす場が減り、植物をはじめ多くの自然素材を活かす場面も激減して久しくなるが、自然や花やみどり、四季の移ろい心の豊かさを求めていくことは変わらない筈だ。今後訪れる様々な条件や場面でも、将来を見据えた独自の提案力や技術力こそが、造園に携わるものの役目といって過言ではない。

寒い日は下へ下へと根を伸ばし、やがて花咲く日を待つ木のように、創業以来この地域に根を張る弊社もまた、歴史を誇りに、幹を太くし、枝葉を伸ばして一層成長していく最中である。

私自身、還暦を迎えた2017年丁酉の年。『みどりも心もゆたかな郷土づくり』を胸に創業100年、さらに造園界の発展に向け尽力したいと思っている。

業界の社長の皆様、しっかり儲けて、高いお給料を用意し、多くの女性を雇用してください。行政の皆様、しっかり予算を獲得して、仕事をつくってください。学会の皆様、私たちの部会はまだよちよち歩きのひよこであり、ご指導・ご支援を」と3つのお願いとともに「乾杯」を発声、懇談の場となった。

集いでは、途中、内田裕郎(一社)日本公園施設業協会会長、奥洋彦(一社)日本運動施設建設業協会代表理事、梅本美奈子全国女性造園技術者の会会長が挨拶。さらに、今年開催の全国都市緑化フェアの開催地である横浜市、八王子市がそれぞれのフェアを紹介。最後に、枝吉茂種(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会会長が三本締めを行い散会した。



法定福利費の内訳を明示した標準見積書の活用により、法定福利費の確保を図りましょう!



国際園芸博覧会
2016

トルコ・アンタルヤ AIPH 総会、IGOTY 審査会

報告

「国際園芸博覧会 2016 トルコ・アンタルヤ」は、国際園芸家協会（AIPH）認証の A1 クラス博覧会としてトルコ南部の地中海に面する観光都市アンタルヤで開催しました。メインテーマは「花と子供達～将来世代のための緑豊かな暮らしを拓く」サブテーマを「歴史、生物多様性、持続可能性、グリーンシティ」とし、約 112ha の広い会場では 54 の国と地域が参加し、平成 28 年 4 月 23 日から 10 月 30 日までの 191 日間の会期中に約 450 万人の入場者がありました。

アンタルヤの町
アンタルヤは、トルコ南部の地中海に

面する観光都市で、年間晴天日約 300 日、平均日最高気温約 24 度と過ごしや

すい気候に恵まれ、日光浴や海水浴、ウインドサーフィン、登山、洞窟探検などのスポーツ・レクリエーションスポットも充実し、マツ林やオリーブ、柑橘類の果樹園、ヤシの木、アボガドやバナナのプランテーションが広がる景観の中に、重要な史跡が点在し、見所も多く、絵画のように美しい旧市街は細く曲がりくねった通りと古い木造の家々が古代都市の城壁に隣接する魅力的な町です。

日本国政府出展庭園

博覧会には、日本国政府から、農林水産省の屋内展示と国土交通省からの日本庭園が出展されました。

日本庭園の出展にあ

たっては実行委員会が組織され、設計にあたり海外日本庭園委員が監修、委員会には日造協から和田副会長、卯之原技術委員長も参加し、庭園の整備、管理などについて検討しました。

庭園は、トルコと日本の友好の象徴として計画し、日本の作庭技術を駆使した枯山水の平庭は、維持管理の省力化も考慮し限られた 4 カ月の整備期間で完成しました。

庭園は、主景を構成する龍門瀑から流れ出る川と内海、外洋を白砂敷とトルコの樹木や草花による植栽で表現し、友好関係の象徴であるエルトゥールル号遭難事件の海岸も取り入れたものです。

AIPH のコンテストでは銀賞を受賞し、閉会時にはトルコ政府に庭園が寄贈されました。

ジャパンデー・ウィーク

9 月 7 日のジャパンデー、8 日から 10 日のジャパンウィークでは、日本文化のパフォーマンス、日本庭園文化セミナーなどのイベントが開催されました。

7 日ジャパンデーの公式式典には、日本から政府代表の中村耕一郎在トルコ日本国大使館公使、古澤達也国土交通省都市局公園緑地・景観課緑地環境室長、鈴木良典農林水産省生産振興審議官、興水肇（公財）都市緑化機構理事長など、国や財団関係者、出展庭園の作庭関係者が参加し、歌舞伎や生け花パフォーマンスなどの催事が盛大に行われました。

9 日にはトルコの関連団体代表者や技術者をはじめ、日造協から和田副会長、山田国際委員長、野村技術・調査部長らが参加し、ビジネス意見交換会や屋内外の展示視察などを行いました。

意見交換会では、日本とトルコの園芸・造園文化の交流を深めるとともに、全国都市緑化フェアへのトルコ視察団の歓迎、トルコの造園団体（SUSBiR）と日造協の組織間連携に基づく、長期人材研修や日本庭園の管理技術セミナーの開催等の可能性を検討することとしました。

そのほか、日本庭園文化セミナーと日本庭園技術紹介として、出展庭園では、日本の庭園文化や作庭技術



日本庭園の作業中④、飾られた鯉のぼり⑤のようす

を紹介する講座を開催し、博覧会を訪れたトルコやヨーロッパの方々と交流を深めました。

AIPH 総会、IGOTY 審査会への出席

AIPH 総会は、9 月 25 日から 10 月 2 日わたって開催。AIPH 総会には、12 カ国が参加し、コピー品種の問題提起、カナダでのグリーンシティ会議開催報告と継続開催の提案、今後の博覧会開催、会議の開催予定などを議論しました。

国際園芸博覧会の開催予定は 2018～2019：台湾・台中、2019：中国・北京、2020：オーストラリア・ゴールドコースト、2021：中国・揚州、2022：オランダ・アムステルダムとなっています。

また、IGOTY（International Grower of the Year: 世界園芸生産者賞）審査会は、イギリス、カナダ、オランダ、ハンガリーとともに日本が審査員を務めており、苗や切花など 5 部門の審査を行い、各審査委員の採点表を事務局に送付し、集計により決定することとしました。

結果はニュージーランド、デンマーク、中国、イギリス、ベルギーなどが入賞し、1 月 26 日にドイツの IPM Essen で表彰式が行われました。



ジャパンデーの意見交換会の状況



会場平面図

学会の目・眼・芽 第 81 回

学術知としての緑の価値の共有化とコミュニケーション

（公社）日本造園学会 論文集委員会幹事 東京都市大学環境学部准教授 横田 樹広

現在、日本造園学会で論文集委員会幹事を務めさせて頂いており、学会活動の根幹である学術論文集の発刊の重責を肌で感じております。

近年は、日本造園学会全国大会論文集（5 号論文集）のほか、年 3 回募集しているオンライン論文集（「ランドスケープ研究」）への投稿数も増えており、学術的価値の高い先進的な論文をいち早く会員各位と社会に発信するため、その審査と編集にあたって全国の多くの先生方のご尽力を頂いております。

論文の投稿や審査の手続き自体は、すべてオンライン投稿システムを介して行われていますが、その質の担保はもちろん、学会誌としての価値や魅力は、投稿者と編集・審査側とのオンライン上での“顔の見えないコミュニケーション”が基盤となっています。

顔が見えないわけですが、双方が学会の「顔」となって、価値が多様化する時代の根源的学術知につながっています。

◆
思えば、緑そのものも、人やコミュニティにとっての質的かつ時間的な価値に重きを置いた、「ひととみどりの関係性」の時代へとシフトし、個人にとっての豊かさや社会的つながりを軸としたマネジメントが求められてきています。

社会に対してオープンで共通的な価値

をもった緑を、その恵みにアクセスできる人々が協働して豊かにしていき、それがまた社会に求められる緑になっていく。これからの緑のまちづくりは、豊かさとながりに対する価値の共有こそが基盤となります。

◆
そのような価値の共有にあたっては、やはり、“コミュニケーション”が必要です。ソーシャルメディア等の発達によって個人が社会と情報共有することが日常的になった今こそ、さまざまな地域課題やそれに対する先進的取り組み、散在しながら蓄積されているノウハウや人的資源の情報などを、シェアし、マッチングし、新たな緑のまちづくりの選択肢を作り出していくことが求められています。

◆
学会の論文集においても、近年の動向の一つとして、事例調査研究分野での投稿数の増加があります。

地域の固有性とそこでの多様な人のつながりの中から磨かれ生まれてくる新たな技術や仕組みは、学術的価値としてもシェアされ、基盤研究分野との新たなコラボレーションにもつながっています。

◆
新たな人と知が集積することで、論文集自体も、皆様に積極的にアクセスしていただける魅力的なフィールドとなることを願っています。

技術委員会 東京大学（本郷キャンパス）の緑地管理状況を視察

技術委員会では、造園技術に関する調査研究に加え、全国で施工されている各種公共造園工事や、これまでに出来た多くの緑地・公園等の管理に関する様々な技術的課題の解決・改善に取り組んできました。それらは、単に机上での検討・協議に止まらず、最新の造園技術の動向を常に把握して、技術者自身の見識を深めるとともに、造園企業の施工能力の向上のために、現場の実態に触れることも重要と考え、機会ある毎に積極的に現場視察を実施して行くことにしています。

◆
今年度は、本郷、駒場Ⅰ・Ⅱ、柏、白金の5つのキャンパスを持つ東京大学の緑地管理について状況を把握するため、9月16日(金)に開催した技術委員会の後、事務局近くにある本郷キャンパスの視察を行いました。

東京大学では、全キャンパスに於ける施設計画（建物等の新築・改修・設備・

緑地・文化財等の維持管理）や利用計画に至る各種事業を「キャンパス計画室会議」が統括しています。

緑地管理に関しては「緑地管理部会」が担っており、今回はその部会長を務められている東京大学大学院農学生命科学研究科下村彰男教授と、キャンパス計画室及び緑地管理部会の方針に沿って実施される剪定・芝刈等の緑地管理受注業者の技術指導（施設部・資産管理部から受託）をされている松田造園技術事務所代表松田武彦氏にご案内いただきました。

◆
緑地にはランク付けが有り、赤門両脇や農学部正面のシイノキ、安田講堂両サイドの大クス、工学部広場や農学部正面ロータリーの大イチョウ、薬学部玄関脇のプラタナス等がシンボルツリーとして保護管理されています。

また、育徳園（通称三四郎池）や懐徳館（重文）も特別なエリアとなっており、



東京大学（本郷キャンパス）視察見学会のようす（育徳園（通称三四郎池））

さらに、安田講堂前のイチョウ並木や工学部のケヤキ並木、本郷通り沿いのクスなど、キャンパス内には多くの緑が存在します。

これまでもクスの巨木の移植や3Dカメラを用いた剪定方法の検討を行ってきましたが、大量の緑地を有することでの多くの課題が山積、施設改修や建物の建て替えなどによる緑地への影響は決して

小さなものではありません。

隣接地からのさまざまな苦情処理や本郷通りなどの敷地境界上の安全確保、特に管理費予算不足は十分な管理が出来ない大きな要因となっているとのことでした。

今後も、当委員会では技術的課題の抽出と検討への反映をし、当協会の技術的な研究に役立てていきます。

講演「造園植栽における“適地適木”」

2つ目の講演は、野田坂伸也(株)野田坂緑研究所代表取締役社長に講演をいただきました。

野田坂氏は、「適地適木」は「自然の立地条件（環境条件）に合った樹種を選んで植えること」を意味する。造園業界では「適地適木」とは流通している在来種を植えることだと誤解されているが、そうではなく「自然環境条件」にあった植物を選んで植栽することで、気候条件、地盤条件を考慮し、造園コンサルタントと施工を担当する現場の造園技術者が手を携えて取り組む必要がある。そして現在、千年の森などで行われている常緑樹の植栽は気象条件や地盤条件など本来の植生を考慮しているとはいえないことを強調されました。

交流会を盛大に開催

勉強会の後の交流会は、米内吉榮東北総支部長より地域リーダーズへの歓迎の言葉と、日造協に対して幻の一本松への調査協力へ感謝の言葉が述べられ、乾杯を発声。中盤には各総支部地域リーダーズが壇上に上がり、参加者を紹介。北陸総支部の中川大佑地域リーダーは、次回勉強会の北陸総支部開催について述べ、多数の参加を呼びかけました。

その後、3人の踊り子と4人囃子太鼓が登場。盛岡さんさ踊りを披露し、場が大変華やきました。

最後に地域リーダーズのサブリーダー・松戸克浩関東甲信総支部地域リーダーが締めくくりました。

中尊寺・毛越寺、仙台街路樹、千年希望の丘を見学

見学では、嘉祥3年(850年)、円仁(慈覚大師)が関山弘台寿院を開創したのが始まりとされる平泉中尊寺からスタート。中尊寺は、境内は「中尊寺境内」として国の特別史跡に指定され、特に目を引くのは総金箔張りの仏堂、金色堂です。金色堂は奥州藤原氏初代藤原清衡が天治元年(1124年)に建立したもので、平等院鳳凰堂と共に平安時代の浄土教建築の代表例であり、当代の技術を集めたものとして国宝に指定されています。

次いで、毛越寺(もうつうじ)を訪ね、国の特別史跡「毛越寺境内 附 鎮守社跡」、特別名勝「毛越寺庭園」を見学。全国的に見ても国の特別史跡と特別名勝

を同時に指定されている場所は非常に少ないとの説明を受けました。

なお、一帯は2011年に「平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群—」の構成資産の一つとして世界遺産に登録されています。

続いて仙台市内の主要な街路樹を見学。仙台市は植栽の計画や設計の方法、維持管理方法、管理改修方針などの技術的な基準を定めた「仙台市街路樹マニュアル」を策定し、街路樹の維持管理に取り組んでいます。この街路樹マニュアルは163ページもあり、その内容は樹種の選定、植栽基盤、剪定方法など多岐にわたり、他の府県と比較しても良好な街路樹の維持管理に熱心に取り組む姿勢が感じられます。定禅寺通りのケヤキ並木など素晴らしい樹形の街路樹は見習うべき点が多いと感じました。

最後の見学地は「千年希望の丘」です。岩沼市では沿岸部に多重防御の新しい社会共通基盤として、津波の力を減衰させる津波除け「千年希望の丘」を整備し、減災に取り組むとともに、後世の人々へ津波被害の大きさと想いをつなぐため、「千年希望の丘」を含めたエリアをメモリアルパークとして整備する計画を進めています。避難丘の上には防災四阿が設置されており、非常時には幕を下してテントとして活用できるほか、かまどとして利用できる防災ベンチや非常用電源にもなるソーラー照明など、様々な工夫がなされていました。



毛越寺と仙台街路樹見学のようす

平成28年度 第2回地域リーダーズ勉強会報告



全体写真 毛越寺にて

地域リーダーズで6回目となる地方開催の勉強会を平成28年11月1日、2日、東北総支部で開催しました。今回の勉強会は、全国各地から140名が参加し、過去最大の参加者となり、復興祈念公園の計画や適地適木の植栽のあり方を学ぶとともに、全国の地域リーダーズ及び東北総支部の皆様との交流、そして世界遺産平泉の中尊寺・毛越寺の見学、仙台の街路樹見学等、大変有意義な研修会でした。今回はその報告をさせていただきます。

はじめに

開会にあたり、今年度より地域リーダーズ代表となっている當内匡総リーダーと、地域リーダーを所管する事業委員会の正本大事業委員長が挨拶。

當内氏 正本氏 當内総リーダーは、地域リーダーズの目的や組織概要、これまでの活動内容を紹介し、活動がかなり活発化してきているので、まだ活動が広がっていない地域の活性化を目指していると述べ、正本事業委員長は、東北総支部への開催の御礼、大きな事業となっている地域リーダーズを、本部としてさらにどのように支援するかを検討していると話されました。

講演「追悼施設・復興祈念公園整備」

1つ目の講演は、脇坂隆一東北地方整



講演会のようす。脇坂隆一氏と野田坂伸也氏にご講演いただいた

備局東北公園事務所所長に、岩手・宮城・福島 の3県で計画している復興祈念公園の概要をお話いただきました。

脇坂所長は、「追悼・鎮魂」、「震災の記録・教訓の伝承」、そして「地域の復興のビジョンや新たなコミュニティのあり方を示す場」を目的として、整備計画を実施していること。原風景や震災前の状況、これからの利用と、通常の公園づくりと異なる様々な内容を検討して計画を立てる復興計画の難しさ。そして歴史的な背景、植栽、植栽基盤などをしっかり把握し、地元のボランティア団体とも連携を取りながら、整備計画を勧められていることを具体的に話されました。

また、計画の段階から、地元の日造協岩手県支部や宮城県支部に、それらの検討をしっかりサポートされているとのことでした。

大分県
ふるさと自慢

温泉だけじゃないんです 味力もたっぷり大分県♪



大分市内のふぐ料理店にて



ふぐの塩焼き

ふぐといえどこの名物？
ここで大分県の名前をあげる方は、少ないのではないのでしょうか。すぐ隣の県出身の私ですら、つい最近まで知らなかった話です。
大分といえば豊富な温泉。そしてそれに負けないくらいの食。私を知る大分の名物から、おすすめを3つご紹介します。

◆

1つ目はふぐです。大分県でふぐ料理といえば、臼杵市が有名です。今回は、臼杵と同等のメニューが嬉しいお値段で食べられる、大分市内のお

店へ行ってきました。

ふぐ刺し、塩焼、唐揚げにチリ鍋、料理ごとに多彩な美味しさが味わえるふぐ！そんなふぐですが、おなじみの料理以外にも大分特有の食べ方があるんです。

それがもう絶品で、きっとふぐの常識がくつがえります！これはぜひ現地で感動していただきたくて、今回写真は載せませんでした。どうぞお許しを。

◆

2つ目は、その名を“クロメ”ネバネバする海藻です。刻んでご飯にのせたり、みそ汁に入れたり…こんなに粘る食材は見たことがありません。

クロメたこ焼きやクロメソフトなど、



やぎ乳のアイスにクロメソースと
ごまをかける!? クロメソフト



きざむ前の生クロメ

道の駅で食べられるおやつもあります。乾燥品や味付けクロメの瓶詰は、ストックしておけるのでおすすめです。

◆

最後はお酒です。梅酒、ワイン、日本酒に、全国的に有名な麦焼酎と、大分の各地で、その土地に根ざしたお酒が造られています。

車だと試飲できないのが歯がゆいですが、温泉の後の楽しみに♡

こんな味力（みりょく）たっぷりの大分へ、みなさんぜひお越しください。

高橋由利子（豊秀植木株）



道の駅さがのせきからの眺め

高木剪定など、足場の設置が困難な場所での安全で快適な作業へ

造園用安全帯 会員予約受付中

従来の胴ベルト型安全帯より、さらに安全、快適に使用できるように開発し会員の方に先行予約しております。

造園用胴ベルト型安全帯は、「U字つり状態で使用することができる胴ベルト型安全帯」として、労働安全衛生法第42条の規定に基づく安全帯の規格に適合したベルトです。

安全帯の愛称募集

安全帯の『愛称名とその説明』会社名、応募者名、連絡先を記入してメールにて応募してください。

応募資格：日造協会員企業に所属する方

応募期間：2017年3月31日



造園用胴ベルト型
安全帯

送り先：safety@jalco.or.jp

年度末に向けて実施予定 会員実態調査にご協力を

造園建設業に関する最新の実態を把握

事務局の動き

【1月】

- 5(木)・新年造園人の集い
- 11(木)・戦略立案部会
- 12(木)・登録造園基幹技能者講習(東京)～13
- 16(月)・職長講習会(福井)～17
- 18(木)・造園フェスティバル推進部会
- ・職長講習会(大阪)～20
- 19(木)・沖縄総支部・支部交流会(那覇市)
- 20(金)・全国造園デザインコンクール等推進部会
- 21(土)・第43回全国造園デザインコンクール審査会～22
- 26(木)・要望・提言活動部会
- 30(月)・中国総支部・支部交流会(岡山市)
- 31(火)・登録造園基幹技能者講習(試験委員会)

【2月】

- 1(木)・関東・甲信総支部と関東地方整備局との意見交換会
- ・財政・運営部会 合同会議
- 2(木)・運営会議
- 3(金)・沖縄国際洋蘭博覧会審査会
- ・企画部会
- ・事業委員会
- 4(土)・第43回全国造園デザインコンクール表彰式
- ・全国造園デザインコンクール推進部会
- 6(月)・街路樹剪定士指導員研修会 講師打ち合わせ
- 7(火)・広報部会
- 9(木)・安全部会
- 10(金)・担い手育成・確保推進部会

するため、年度末に会員実態調査を行います。

今後の活動に結びつく貴重なデータとなりますので、会員皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

- 14(火)・調査・開発部会
- 16(木)・登録造園基幹技能者講習委員会
- 21(火)・技術委員会(技術企画部会)
- 23(木)・戦略企画部会
- ・造園領域発展戦略委員会
- 24(金)・造園領域発展戦略委員会(女性活躍推進部会)

委員会等の活動

●安全部会

造園用胴ベルト型安全帯の販売方法の検討と取扱説明書の作成、「(仮称)足場の設置が困難な剪定作業標準マニュアル(案)」の編集、「造園工事、維持管理業務等の事故に関するアンケート」の実施、「造園安全作業のしおり」の改訂について検討した。「造園用胴ベルト型安全帯」の見本頒布、先行予約販売と愛称募集を説明した。(12/6)

●戦略立案部会

委員会・部会の体制について説明し、災害時における復旧支援活動の展開、日本庭園文化の世界遺産登録活動展開、観光・地域活性化・地域創生への取組展開、都市公園制度見直し等に対応した取組の展開について検討した。(1/11)

●国際委員会

海外街路樹の育成技術等に関する情報収集方法と情報発信、海外日本庭園の調査等の協力の対応方針、AIPH-スプリングミーティングとIGOTYの応募者募集、来年以降の海外視察プログラムについて検討した。(12/14)

編集後記「植栽保護のため前進駐車してください。」という指示看板をみかけますが人間を含めた環境保全・修景のため施されたもので、排気口を向けて停めて枯れるような樹種は植えてありません。後方の視界不良で駐車場の事故の原因！



迷惑な雪？ありがたい雪？

青森県支部

三浦綾子
(有)三浦造園

2月、すべてが雪に覆われてしまう津軽地方。

りんご畑・田んぼ・道路・そして丹精込めて造ったお庭や花…。そしてひたすら続く雪かき。毎年うんざりな2月なのです。

寒風吹きすさぶ中に津軽三味線が聞こえてきそうな感じですが、最近は、そのおじやま虫の雪を楽しむイベントが、増えてます。

五所川原地方の地吹雪体験ツアーは近年、海外のツアーとかもあり有名です。

私は、「何を好き好んで吹雪の中を」と思いますが、雪に触れることのない地域の人にとっては、新鮮なのでしょう。

◆

雪まつりと言えば、札幌雪まつりが有名ですが、津軽地方にもあるんですよ。

弘前城雪灯籠まつりがその一つ。公園の中がミニマクラや雪燈籠でいっぱいになる市民参加型のお祭り。私も高校生の時、スコップ持参で雪燈籠作りに参加しました。なつかしい思い出です。



エンジン刈払機アタッチメント

スーパー
カルマー
Rotary Scissors



国土交通省 NETIS 登録製品

「日本建設機械施工大賞」受賞製品

逆回転ハサミ刈りで
石跳ね事故を未然に防ぐ



2017年 新モデル発売!

「φ280mmワイド刃」も対応できる

IDECH

株式会社 アイデック
IDECH CORPORATION

〒675-2302 兵庫県加西市北条町栗田 182
TEL.(0790)42-6688 FAX.(0790)42-6633
E-mail:info@idech.co.jp HP:http://www.idech.co.jp